

The
TIME
is
NOW

源流の郷

vol.03

2023.03

全国源流の郷協議会

源流を守り、
国土保全を推進する市町村連盟





源流を担う人材を育成し、次世代に紡ぐ

全国源流の郷協議会では、「源流の危機は国土の危機」を合言葉に国土保全と水源地の保護の役割は、私たちの地域の使命であるとともに、国民的課題であると訴えてきました。本協議会の動きと符合するように、奈良県川上村としても、平成6年の第三次総合計画「吉野川源流物語」の発表を皮切りに、平成8年に川上宣言を発信し、平成10年には紀の川（吉野川）の最源流部を「吉野川源流-水源地の森」として公有林化するなど、源流にこだわりをもった水源地の村づくりを展開してきました。

源流を守り続けるためには、源流の本当の価値がわかる人材とその人材が源流に住み続けられる持続可能な仕組みが必要です。川上村では、地域資源の教材化を進めESDを推進し、源流を担っていくことのできる人材の育成を続けるとともに、かわかみ源流ツーリズムとしてエコツーリズムを展開。村民はじめ村に関わる人との協働を進めます。

これからも本紙や全国源流サミットを通じて源流の価値を伝えるとともにみなさまと、源流を次世代に紡いでいく所存です。

みなさまのご支援・ご協力をお願いします。

全国源流の郷協議会
副会長 栗山忠昭（奈良県川上村 村長）



「第14回全国源流サミット」は 福島県塙町で開催！

2023年（令和5年）10月、「第14回全国源流サミット」が福島県塙町にて開催予定。塙町は日本有数の鮎釣りスポットである久慈川が南北に流れる自然豊かな町であり、ダリアをはじめとする花栽培が盛んな「花の町」としても注目を集めている。サミットでは源流地域の持つ豊かな自然環境やその保護について社会に広く発信することを目的に、パネルディスカッションや基調講演などが行われる予定となっている。

源流域の水と森、その価値を広める

OUR ACTION ③

自然との共生を最大の魅力に

水源地を守る源流域の自治体にとって、森や水という豊かな自然は他の地域にはない大切な財産である。保全管理はもちろんだが、自然との「共生」を強く意識することで源流域ならではの魅力をさらに高めていくこともできるのだ。



白神山地

広大な山地帯の総称で1993年(平成5年)に世界自然遺産登録。人為の影響をほとんど受けていない世界最大級の原生的ブナ林が分布する。



青森県西目屋村

自然を楽しみ、学ぶ提案を積極的に行う

青森県中西部を流れる一級河川・岩木川の源流域である西目屋村では、自然と共生する村づくりを謳っている。企画財政課の工藤吉倫さんによると、西目屋村は自然保全だけでなく自然を楽しむ施策にも積極的だという。

「2016年(平成28年)に津軽ダムが竣工しました。このダムによってできた湖(津軽白神湖)を利用し、水陸両用バスの運行を行っています。東北初の試みで観光施策として始めたものですが、ダムや源流域の役割を学ぶ教育体験としても役立てていただいています。またカヌーによる村づくりを進めていて『白神カップカヌー大会』を村主催で毎年開催していますし、年1回『ジャンクアップ』も開催され全国から競技者が集まります。西目屋村は岩木川

※世界自然遺産の登録地域は、特に優れた自然環境で人為の影響をほとんど受けていない核心地域(コアゾーン)と、核心地域の周辺部の緩衝帯としての役割を果たす緩衝地域(バッファゾーン)に分けられている。



ブナ林散策道

白神山地の自然環境を手軽に体感できる散策コース。他にも多くの散策コースや登山コースがある。



津軽ダムと水陸両用バス

津軽ダムによって形成された津軽白神湖の湖面を走る水陸両用バスから白神山地を眺めることができる。



カヌー

西目屋村では毎年多くのカヌー競技が行われ、競技者だけでなく子どもや女性など、幅広い世代の人が訪れる。



暗門の滝

白神山地の緩衝地域の奥に位置する暗門渓谷にある3つの滝の総称。「暗門渓谷ルート」は人気のトレッキングコースだ。

の水の恵みを活かしたアクティビティには力を入れています」

西目屋村は世界自然遺産「白神山地」を有する地域だけにその保全や整備には苦労もあるが、手付かずの自然を多くの人に楽しんでもらうためにさまざまな取り組みを行っている。

「緩衝地域*のブナ林散策道は、入山許可なく誰もが歩けるように整備しています。気軽に歩けるコースを設けたことで、世界自然遺産である白神山地を歩きたい人たちが国内外から訪れています。2023年(令和5年)に白神山地は世界自然遺産登録30周年を迎えるため、村としても節目に向けたイベントや整備を進めています。西目屋村にしかない自然を守りながら、自然を楽しむ、自然を学ぶ提案を、これからも行っていききたいと思います」

島根県吉賀町

水源を守る。その誇りが町の魅力

町を東西に流れる高津川。国土交通省による全国一級河川水質ランキングで通算7回も1位に選ばれた清流である。その水源を有する吉賀町では川を大切にしている意識が高いと、吉賀町企画課・課長補佐の深川竜也さんは語る。

「高津川の水源があることは地域の誇りです。だから吉賀町の誰もが高津川を大切に考えています。学校間の上下流交流も盛んで、下流域の子どもは吉賀町の水源を見ることで水の大切さを学び、吉賀町の子どもは下流域に行って海辺の漂着物調査をおこないます。上流でごみを捨てると下流域に迷惑をかけることを学び、上流域で暮らすことの意識を高めます」

吉賀町には「健康と有機農業の里」をキャッチフレーズに40年以上前から有機農業に取り組む旧柿木村があり、環境や健康への関心が高まる現在、その生き方・暮らし方に注目が集まっている。山の斜面に棚田が広がる地域では、冬の農閑期に行うライトアップが観光客に人気だ。2021年(令和3年)には第23回・食



旧柿木村の有機野菜

1970年代から村をあげて有機農業に取り組む、環境や健康に関心が高まる現在、旧柿木村の暮らし方が全国から注目されている。



味分析鑑定コンクール国際大会において、棚田のオーナー制度を利用した柿木小学校が栽培したコシヒカリが小学校部門金賞を受賞。水のきれいな地域の農作物のおいしさが全国に証明された。産業課・統括主幹の加藤彰さんは、この豊かな自然こそが町の魅力であると教えてくれた。

「水のきれいさや住みやすさを理由に移住者も増えています。吉賀町には目立つ観光名所はないですが、環境や健康への意識が高まっている今、地域で水源を守り続け、川に親しんできたことが、結果として、町の価値を高めていると感じています」



水源祭り

水源公園にある「大蛇が池」から高津川の源流が湧き出ている。毎年6月には、神事を由来とする水源祭りがここで行われる。



高津川

清流として有名な高津川は支流も含めダムが一つもない日本唯一の一級河川である。鮎釣りスポットとしても人気だ。

棚田のライトアップ

8ヘクタールの斜面に600枚ほどの棚田が広がる「大井谷の棚田」。10月～11月の間、幻想的にライトアップされる。



1本杉

樹齢1000年以上といわれる杉の巨木。「大蛇が池」の真横に立つ。島根県名樹百選の一つ。



[流域のまちづくり]

当たり前前の景色を観光資源に。
自然の中を歩きたい外国人観光客に着目

全国で初めて
古い町並みの保存を
おこなった妻籠宿。
そこで暮らす人々の
生活やおもてなし精神が
観光客を癒す。



柿其溪谷は
川が花崗岩を
V字に侵食してきた渓谷。
外国人観光客に人気の景勝地だ。

妻籠宿と隣接する
馬籠宿をつなぐ中山道沿いにある
無料休憩所
「一石板立湯茶屋」。
中山道を歩く外国人観光客も
ここで喉をうるおす。



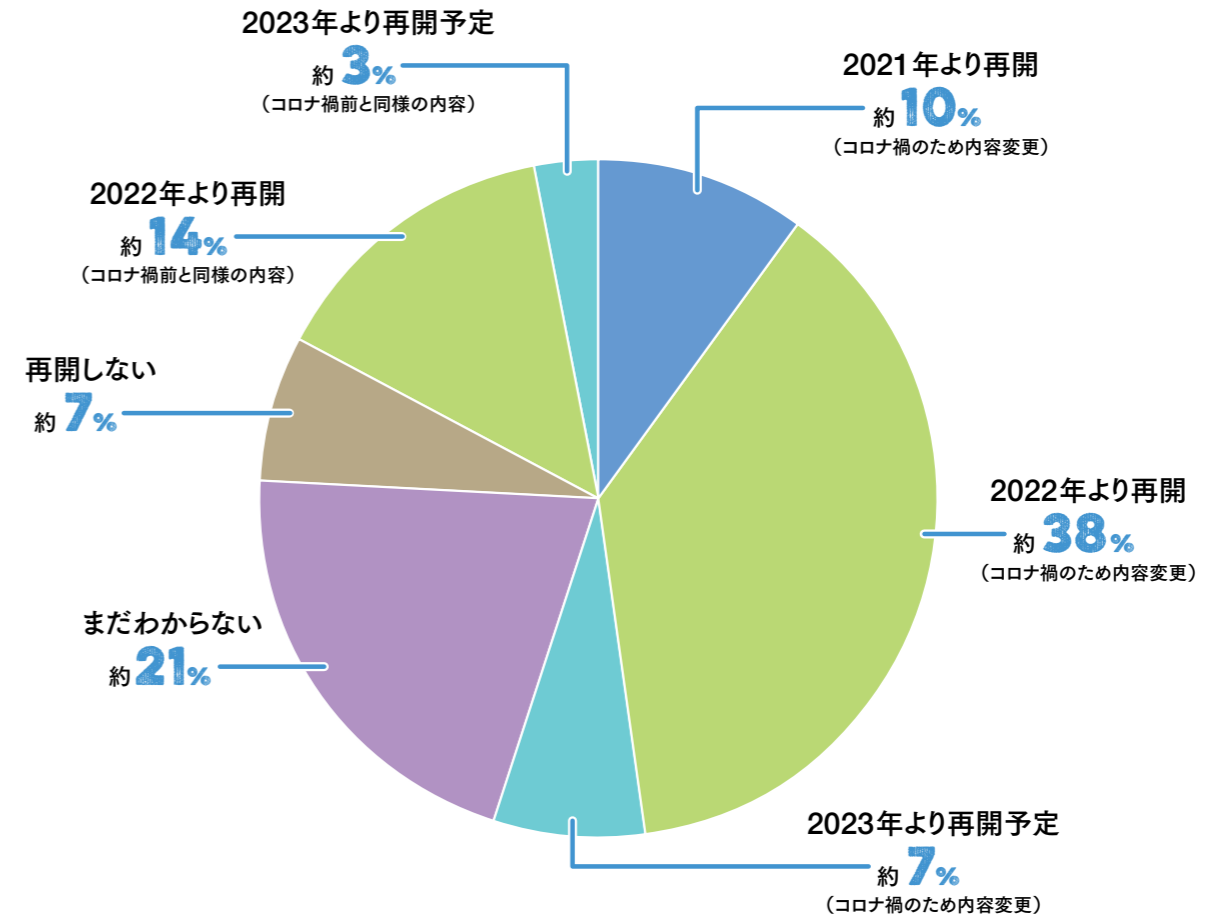
江戸時代の宿場町の面影が残る妻籠宿を観光資源の中核とする長野県南木曾町。新型コロナウイルス水際対策緩和以降、妻籠宿を中心に外国人観光客が戻ってきている。なぜ南木曾町は、外国人観光客からの注目が大きいのか。もっと元気に戦略室元気なまちづくり係の西尾真一さんは、地域が団結して古い町並みを守ってきたことが現在の妻籠宿人気につながっていると語る。「1968年(昭和43年)に妻籠地域の住民組織『妻籠を愛する会』が発足しました。その後『妻籠を守る住民憲章』が制定され、許可なく建物を改修することを禁じるなど、50年以上前から町並みの保存に地域をあげて取り組んできたのです。町役場としても早くから海外からの観光客をターゲットと捉え、Wi-Fi設置や多言語でのパンフレットや案内板の製作、妻籠宿の歴史を学べる南木曾町博物館を整備しました」

2016年にイギリスの旅番組で妻籠宿が取り上げられ、欧米からの注目度は一段と上がった。江戸時代に参勤交代な

どで武士が行き交ったことから中山道は「サムライロード」として紹介され、妻籠宿を起点に木曾路を歩くことが人気となった。特に妻籠宿寄りの街道は自然がそのまま残っており、そのことが外国人観光客にとって大きな魅力となっている。「南木曾町にとって妻籠宿は大切な観光資源ですが、町の魅力はそれだけではありません。木曾川や溪谷、滝などの自然も南木曾町の大切な観光資源なのです。町で暮らす私たちには当たり前前の景色ですが、日本の豊かな自然の中を歩きたい外国人観光客は多いです。町・観光協会としてもこの点は認識していて、自然の中を歩く観光ルートを英語で情報発信するなどPRに力を入れています」

妻籠宿や中山道という歴史遺産があることは確かに南木曾町の強みだが、周囲の自然を上手に組み合わせて観光施策を展開しているところは他の自治体にも参考になるだろう。日本人とは異なる外国人観光客のニーズをとらえ、豊かな自然を観光資源としてうまく活用していきたいものだ。

コロナ禍のため見送ったイベントの再開は？



新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、約3年の間、さまざまな地域イベントが中止となった。加盟自治体[※]へのアンケートには「感染波の繰り返しで再開の判断が難しい」「中止している間にイベント経験のある職員が異動になり、さらに再開が難しくなった」などのコメントが寄せられた。コロナ禍でも再開に踏み切った自治体からは「感染拡大防止の対応をどこまですべきかを迷った」という意見が多く、担当者の苦悩がうかがえた。『小鹿野町歌舞伎・郷土芸能祭』を子どもの参加を優先する形で再開させた小鹿野町教育委員会の肥沼隆弘さんはコロナ禍でのイベント開催は「行政だけで考えるのではなく、開催できる方法を一緒に考えてくれる協力者を増やすことが大切」と語る。祭りなどのイベントは不要不急扱いされてきたこともありコロナ禍前と同様の内容で開催する自治体はまだ少ないが、地域文化やコミュニティを守るためにも途絶えさせないことが大切なのだ。

再開 Pick-up 1

埼玉県小鹿野町では、郷土芸能の祭典「小鹿野町歌舞伎・郷土芸能祭」を子ども団体に出演を限定し2021年に「小鹿野町こども歌舞伎・郷土発表会」として再開。郷土芸能継承の機会が失われないようにした。

再開 Pick-up 2

青森県西目屋村では、村内のさまざまな祭りを一つのイベントにまとめて2022年に再開。内容は変わったが、新しいイベントとして好評で集客にもつながった。次年度以降もこの形を継続予定だ。

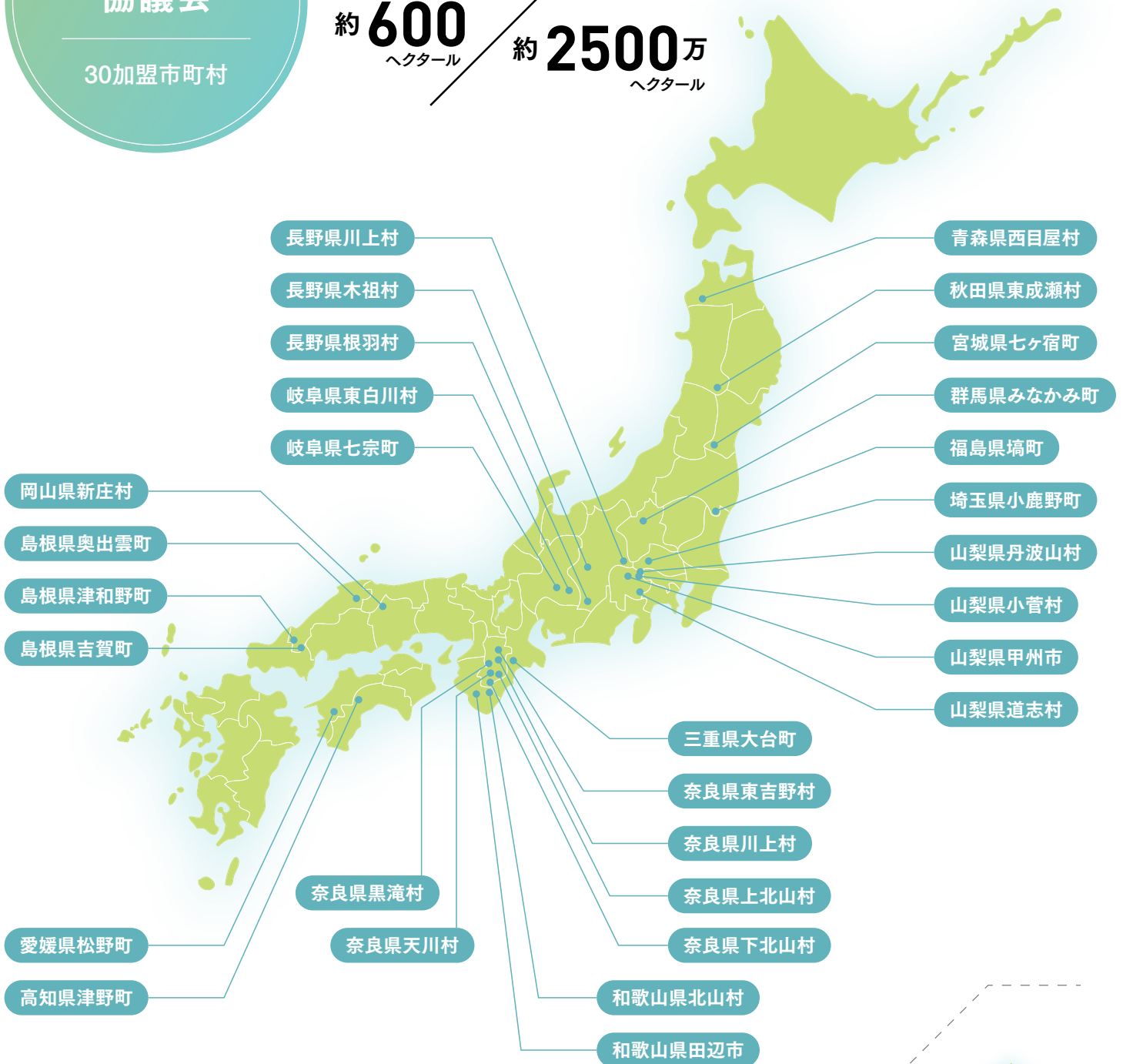
※「全国源流の郷協議会」と「源流を守り、国土保全を推進する市町村連盟」に加盟する自治体にアンケートを実施。回答数25自治体、全45イベントを集計

全国源流の郷 協議会

30加盟市町村

日本の森林総面積に占める
源流の郷が保有する森林面積

約 **600** 万
ヘクタール / 約 **2500** 万
ヘクタール



源流を守り、国土保全を推進する市町村連盟 (14加盟市町村)

- 東京都稲城市
- 東京都狛江市
- 長野県南木曾町
- 長野県木曾町
- 長野県大桑村
- 長野県上松町
- 長野県塩尻市
- 長野県白馬村
- 長野県小谷村
- 奈良県御杖村
- 奈良県十津川村
- 奈良県野迫川村
- 三重県亀山市
- 高知県須崎市

2023年3月現在

全国源流の郷協議会 事務局

源流を守り、国土保全を推進する市町村連盟 事務局

小菅村役場 源流振興課 〒409-0211 山梨県北都留郡小菅村4698 TEL.0428-87-0111

表紙写真：おおたき龍神湖に
架かる白屋橋(奈良県川上村)
写真：辻本勝彦